

いさきだ

発行…伊崎田校区コミュニティ協議会
第8号 令和6年7月9日

特集 特別支援学校

令和6年2月20日県議会において塩田知事から伊崎田学園内に県立特別支援学校を新設することが表明されました。県教育委員会が公表した曾於地区特別支援学校整備計画で、市立の小・中学校、私立のこども園が隣接し、児童生徒、教職員同士が交流及び共同学習し、地域住民と連携したインクルーシブな学校運営を行うことができる環境を整備すると示されています。設置される特別支援学校は今後の児童生徒数から本校として整備されることになっており、設置学部は、小学部、中学部、高等部です。障がい区分は、知的障がい、肢体不自由の子ども達を対象で今年度曾於地区で86名が在籍している。

中学校 令和8年度新校舎へ

県は、今年度中に基本設計、来年度に実施設計を行い、令和8年度から令和9年度にかけて建設工事を行い、令和10年度の開校を予定している。

これを受けて市教育委員会は、今年度に基本設計・実施設計を行い、来年度に中学校の新校舎を小学校敷地に建設を予定していると去る5月14日に伊崎田学園ふれあい館会議室で説明があった。

校区コミュニティ協議会長桑迫と伊崎田学園学校運営協議会長本田、八代市議、青山市議、小・中学校長、PTA会長、こども園長、志布志市に特別支援学校を作る会で協議を重ね、中学校小学校敷地へ中学校移設に係る要望書を次のとおり提出した。

要望（1）施設一体型小中一貫校として地域住民に開かれた教室等、施設建物とする。

◇設置要望教室、施設等

- ①図書室や特別教室の設置
- ②学びの多様化教室の設置
- ③男女別更衣室の設置
- ④教職員の休憩室、相談室の設置
- ⑤和紙づくり作業倉庫の設置
- ⑥渡り廊下との段差の解消
- ⑦ふれあい館周囲の段差の解消
- ⑧梅林の確保
- ⑨駐車場の確保
- ⑩渡り廊下の設置

要望（2）校舎建設に当たっての建設委員会の設置

要望（3）校舎建設に当たって敷地確保のため、山林を取得する

要望（4）及び（5）住環境の整備

要望（6）こども園前の駐車場の舗装

要望（7）小学校とこども園の境界の側溝の整備
校舎の配置に関する3つの案を提示

1案 ふれあい交流館の前に建設する案

2案 保育園側に建設する案

3案 東側の山林を造成し建設する案

要望書に対する

市総合教育会議の結果

去る6月7日に開かれた令和6年度第1回志布志市総合教育会議議事録が7月2日にホームページで公開された。それによると要望書に対する回答は次のとおりです。

要望（1）①必要な教室等については、国の設置基準、今後の生徒の見込み等を勘案し、学校と協議して対応します。

要望（1）②市全体の観点から対応します。

要望（1）③教職員用について、設置できるよう検討します。

要望（1）④教職員の休憩室、相談室の設置については、設置できるよう検討します。

要望（1）⑤今回の整備では、考えておりません。

要望（1）⑥整備できるよう検討します。

要望（1）⑦今回の整備では、考えておりません。

要望（1）⑧確保できるよう県と協議します。

要望（1）⑨整備できるよう検討します。

要望（1）⑩今回の整備では考えておりません。

要望（2）委員会の設置は考えておりません。

要望（3）今回の整備では考えておりません。

要望（4）及び（5）今回の整備では考えており

インクルーシブ教育とは？

人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶこと



文部科学省
MEXT
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY JAPAN

ません。

要望(6) 整備できるよう検討します。

要望(7) 整備できるよう検討します。

会議の質疑として、委員から建設委員会の設置について、設置しない理由を問われ、課長から仮設校舎の建設が必要になり年間4千万円(概算)の費用が別途生じ、市の基本方針では、必要な施設を整備するとしており仮設校舎を建設してまで協議する時間は設けられないという判断に至ったとの回答で、委員から子供たち、保護者、職員、そして地域の方々からの多くの意見を伺いながら進めてほしいとある。また、ある委員からは、整備に関しては、市全体のバランスを考慮しながら進めていかなければ、特定のところだけ突出した整備を行うことはいかななものかと思うとの疑義に、市長は、特別支援学校が本誌に新設されるからといって、その学校だけに特化した整備を進めることで、逆に公平性が問われることにもなりますので、内部でもしっかりと協議しながら取り組んでいきたいと考えていると回答、これに対し、別の委員から、地元の声を受け止めたいと、検討を重ね、市にとっても可能な範囲で取り組もうとする姿勢が感じられるよう、より丁寧な表現で回答を伝えていただきたいとある。

今後の中学校建設までの予定

令和6年7月10日(水)伊崎田学園ふれあい館において、市教育委員会から要望書に対する回答と今後の整備計画が示される。同日の夕方行われる学校運営委員会に報告し、7月20日(土)午後7時から伊崎田地区公民館2階で、夏休み前の青少年育成会議全体研修会で、教育委員会から説明してもらう予定です。自治会長、学校関係者は、是非出席して下さるようお願いいたします。

「ミ」協役員・学校長等で

特別支援学校研修視察

6月29日(土)宮崎県立小林こすもす支援学校を訪問、森永英津子校長と藤元龍哉教頭に対応していただきました。支援学校単独の校舎でなく、小学部は市立東方小学校、中学部は東方中学校、高等部は小林高校へそれぞれ併設されていた。令和6年度から8年度まで国の事業で、インクルーシブル(「みんないっしょに」)、「仲間はずれにしない」な学校運営モデル事業に取り組んでいる。支援教育はオーダーメイドの教育と言われ、一人一人の教育的ニーズを把握することが大事で、「手は離しても、目は離すな」と言われていた。地域住民からは良くしていただいている。また、近年生徒が増加しており教室が不足しており、5・6年生は車で10分ほど離れた高等部に間借りしていた。こすもす支援学校は、間借り状態での限られたスペースでよく指導教育されていると感じました。支援学校に通う児童生徒は、平日の通学者であり、地域とのふれあいはなかなか機会が無いことも分かり、今後の「ミ」協運営の参考にしたい。

6月30日(日)日南市立東郷公民館を訪問、日南市への研修の目的は、地域と支援学校の関係性を主に行った。東郷地区は、7つの自治会があり、その内の風田地区に日南くろしお支援学校がある。風田地区では、学校で開催される収穫祭で、地域住民が農作物を買うなどしていた。また、風田神社に伝わる神楽を保存会のメンバーが支援学校の生徒に教え、毎年2月に奉納される祭りに参加しており、県全体の支援学校の発表会で披露したりもしていた。学校が海に面しているところであり、自治会の防災意識が高く、支援学校と連携して防災点検を行う必要があると話されていました。

自治会長研修会で

ニーススポーツモルックを体験

6月2日(日)に伊崎田学園小学校校庭でモルックの競技をしました。田植えの準備等忙しい時期で自治会長研修への参加ありがとうございました。コミュニティ協議会役員と自治会長3人程を1組として、対戦形式で行ないました。

モルックは、フィンランドが発祥の地で、日本ではお笑い芸人の方が世界大会に参加したことがテレビ放映されたことで、ここ数年徐々に広がりを見せている競技です。ルールは、いたって簡単でチーム戦、個人戦が楽しめます。対戦相手と50ポイントを目指して、①、1から12の数字を書いた木製のピン(スティクル)を決められた配置で立てます。②、3メートル50センチ離れた位置からモルック(木の棒)を下投げ、倒した本数により点数(1本だけ倒れたときは、スティクルに書いてある数字が点数)が決まり、③、スキットルは、倒れた位置に立てます。

②、③を繰り返し50点をちようどを目指します。先に50点なった方の勝ちとなります。

校区コミュニティ協議会で10セット購入してありますのでやってみてみたいという方がいらつしやいましたら伊崎田地区公民館へご連絡ください。

編集後記

一度決めたことを考え直すことは、なかなか勇気がいることで体力も消耗します。支援学校建設が頓挫しては元も子ありませんが、今回公開されました市総合教育会議議事録の協議結果は、最初の説明と殆ど変わることはない回答となり残念です。今後は、中学校新校舎の快適さを目指してよりよい環境で子ども達が教育を受けられるよう整備されることを願うばかりです。